

安倍内閣の国政私物化に国民が怒る中、「共謀罪」法案採決強行 市議会でも日本共産党議員などが議会制民主主義の破壊だと厳しく非難

なんとということでしょう、「共謀罪」法案の審議をすればするほど疑問点や新たな論点が噴出し、さらには、森友・加計学園疑惑という国政私物化に国民の怒りがわき起こるなか、安倍政権は、参院法務委員会での審議を一方的に打ち切り、本会議採決に持ち込む「中間報告」という“禁じ手”を使ったのです。

「共謀罪」法案の採決の前に提出された安倍内閣不信任決議案の討論で、日本共産党の志位和夫委員長は、「まず『中間報告』による審議の一方的打ち切りという乱暴極まる方法で、『共謀罪』法案を強行しようとしている安倍政権に対して、満身の怒りを込めて抗

議する」とのべ、「国会での『数の力』に慢心し、国政を私物化し、目を覆うばかりのモラル崩壊がすすんでいます。もはやこの内閣に、わが国の国政を担う資格はありません」と強調しました。

「共謀罪」法案の慎重審議求める請願は不採択に

上越市議会では、6月議会の最終日の15日、馬場秀幸弁護士が代表を務める市民団体から提出されていた「『共謀罪』法案の慎重審議を求める請願」で討論、採決が行われました。

委員会審査では賛成多数で採択されていましたが、本会議では賛成12、反対19と逆転され、不採択となりました。議事人なら、慎重審議を求めるのは、法案に賛成反対に関係なく当然だと思うのですが、残念です。

討論では、会派「新政」の牧田正樹議員が、同日の朝の参議院での強行採決を批判、「議会制民主主義を否定するもので、参議院の自殺行為だ」とのべました。日本共産党議員団の平良木哲也議員も、「中間報告に名を借りた暴挙」だと批判するとともに、「日本はこれまで13のテロ対策関係条約に加入し、すでに関連する国内

法の整備を行っていない」「この法案はテロ対策を目的にしていないことを政府自ら答弁している」などとのべ、慎重審議を求めた請願に賛成討論を行いました。

(左上の写真は直江津は三八市通りで見つけたお寺の掲示板です)

市議会が移住サポート団体と率直な意見交換

市議会広報広聴委員会は6月議会議終了後、市内移住サポート団体との意見交換会を板倉、安塚、柿崎、大島などで開催してきました。私は柿崎、大島会場での意見交換会に参加しました。

以下は20日に行われた大島区田麦で行われた「上越市やまざと暮らし応援団」(小山章喜理事長)との意見交換会の様子です。

まずは、コメ作りをしながら農家民宿を準備している牛田さん&三浦さん宅を訪問し、民宿や山間地での暮らしの魅力について語ってもらいました(写真右下)。その後、旭就業改善センターで、「暮らし応援団」の小山理事長や天明事務局長などと、中山間地域の現状や今後について意見交換させてもらいました。

会では、「いま、中山間地域を



【ムラサキシキブ】シソ科の落葉低木。漢字で「紫式部」と書きます。花は淡紫色です。私の地元事務所の近くで、2か所咲いています。実は秋、きれいな紫色になります。吉川区代石にて20日撮影。



残せるかどうかの切羽詰まったときにある。中山間地域で(対策として)やっていることを平場でもやっついていかないと、そこもダメになる」「雪をバカにしてはならない。雪が降るから水がある。平場の人の中には、水が山から下に勝手に流れていると思っっている人がいるかもしれないが、山が荒れると水は出ない」「押しつけではなく、ほんとうに好きなことをやるようにすることが大事で、それを下支えする仕組みを」などの声を寄せていただきました。今後の対策を考える上で貴重な意見交換ができたと思います。

はしづめ法一の活動レポート

No.1812 2017.6.25

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第四六〇回

小鳥の演技

「橋爪さん、おまん、あの鳥の名前わかんなる？」—先日、市で買い物済ませ、自分の車のところに向かおうとしていた私にそう言って声をかけてくださったのは、店番をしていたTさんでした。

私が「何？」って顔をしたのでしよう、Tさんはすぐ歩きだし、私と一緒にその小鳥の近くまで行きました。驚きましたね。小鳥から二羽ほどのところに行っても、飛び去ることなく、親指大の砂利の上をパイパイ鳴きながら歩きまわっていたのです。

小鳥が遠くに行かなかったのには理由がありました。Tさんから教えてもらったのですが、近くにその小鳥が産んだと思われる卵が三つあったのです。小鳥はこれらの卵を守るために離れずにいたのです。

卵の大きさはウズラの卵とほぼ同じでした。結構大きく、一雫×二雫くらいはあったでしょう。スズメと同じくらいの小鳥がよくこんな大きな卵を産んだものです。卵の色と模様は周囲の砂利とまったく同じです。だから、いったん卵から目を離すと分からなくなってしまうのです。

私は、駐車場の一角にいたこの鳥の名前を即座に答えることができませんでした。最初はセキレイの仲間かと思ったのですが、黄色い輪で囲まれた目といい、のどの下にある帯状の模様といい、これまで見たことがないものです。「これは初めて出会った小鳥だな」と私は思いました。

私は自分の車に戻り、カメラを用意しました。あとでこの小鳥の名前をしっかりと調べたいと思ったからです。そのためには、体の大きさ、顔や頭などの模様、全体としての雰囲気などをしっかりと記録しておくなければなりません。

小鳥にカメラを向けると、何ということでしょう、左右の羽を広げて、私を睨（に

ら）みつける、そんな行動に出たのです。黄色い輪に囲まれた目は鋭く、睨んだときはすごい味がありました。Tさんは、「威嚇（いかく）している」と言っていました。自分が産んだ卵をとられると、この小鳥に思わせてしまったのかも知れません。

私はこの日、市役所で会議があり、時間はあまりありませんでした。でも、砂利の窪みに卵を産んだ小鳥がいて、それを守るために一生懸命になっている。その姿を見たら、すぐには離れる気にはなれません。市役所に行かなければならないギリギリの時間まで遠くから観察を続け、気がなつたことをメモ帳に記録しました。

この日、私は市役所での会議が終わってから再びこの場所を訪れました。正午近くだったと思います。インターネットや本で名前を調べた私は、この小鳥がチドリの間であることを知り、再度、観察するなかで、コチドリであることを確信を持ちました。もちろん、Tさんにも伝えました。

二度目の観察は、インターネットで新たな知識を得た後でした。最初に見たとき、コチドリが翼を広げたのはなんだったのか気になりました。というのも、コチドリは「自分が傷ついてもがき苦しんでいる様子を演じ、敵の注意を自分に引きつけさせて、卵や雛と反対の方向へ敵を導こうとする」ことがわかったからです。これを「擬傷（ぎしょう）」というのだそうです。この日は確認できませんでしたが、小鳥が演技をするとは思いませんでした。

コチドリの抱卵期間は三週間余り。そして、その後、巣立ちまでどれくらいかかるのでしょうか。これからは梅雨時期で雨も風も吹きます。暑い日もあるでしょう。それにへびに襲われる可能性もあります。無事に巣立つてほしいですね。

直江津歴史講座に参加

18日午前、直江津のライオン像のある建物で直江津歴史講座がありました。このほど新潟県無形民俗文化財となった「直江津・高田祇園祭の御旅所行事と屋台巡行」について学びました。講師は佐藤和夫さん。

方面隊から1000人を超える団員が集まり、小型ポンプ操法などの競技を繰り広げました。この日は異常に寒かったですが、団員はきびきびと動いていました。写真は吉川方面隊中央分団。



消防団の市長点検実施

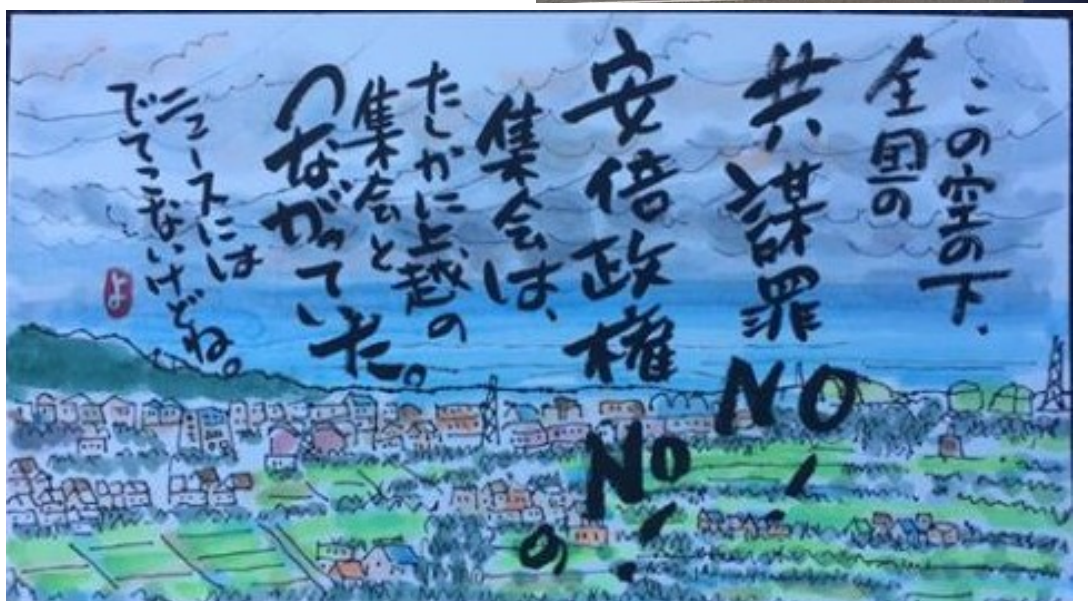
18日の午後からは上越市消防団の市長点検でした。会場となった春日野駐車場には市内各



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月14日(水)	6月21日(水)
上越南消防署	0.040	0.043
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.050	0.053
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.050	0.057



6月議会が終わった翌日、高田のYさんから絵手紙をもらいました。元気が出ます。

春よ来い

第四六〇回

小鳥の演技

「橋爪さん、おまん、あの鳥の名前わかんなる？」—先日、市で買い物済ませ、自分の車のところに向かおうとしていた私にそう言って声をかけてくださったのは、店番をしていたTさんでした。

私が「何？」って顔をしたのでしよう。Tさんはすぐ歩きだし、私と一緒にその小鳥の近くまで行きました。驚きましたね。小鳥から二羽ほどのところに行っても、飛び去ることなく、親指大の砂利の上をパイパイ鳴きながら歩きまわっていたのです。

小鳥が遠くに行かなかったのには理由がありました。Tさんから教えてもらったのですが、近くにその小鳥が産んだと思われる卵が三つあったのです。小鳥はそれらの卵を守るために離れずにいたのです。

卵の大きさはウズラの卵とほぼ同じでした。結構大きく、一雫×二雫くらいはあったでしょう。スズメと同じくらいの小鳥がよくこんな大きな卵を産んだものです。卵の色と模様は周囲の砂利とまったく同じです。だから、いったん卵から目を離すと分からなくなってしまうのです。

私は、駐車場の一角にいたこの鳥の名前を即座に答えることができませんでした。最初はセキレイの仲間かと思ったのですが、黄色い輪で囲まれた目といい、のどの下にある帯状の模様といい、これまで見たことがないものです。「これは初めて出会った小鳥だな」と私は思いました。

私は自分の車に戻り、カメラを用意しました。あとでこの小鳥の名前をしっかりと調べたいと思ったからです。そのためには、体の大きさ、顔や頭などの模様、全体としての雰囲気などをしっかりと記録しておくなければなりません。

小鳥にカメラを向けると、何ということでしょう、左右の羽を広げて、私を睨（に

ら）みつける、そんな行動に出たのです。黄色い輪に囲まれた目は鋭く、睨んだときはすごい味がありました。Tさんは、「威嚇（いかく）している」と言っていました。自分が産んだ卵をとられると、この小鳥に思わせてしまったのかも知れません。

私はこの日、市役所で会議があり、時間はあまりありませんでした。でも、砂利の窪みに卵を産んだ小鳥がいて、それを守るために一生懸命になっている。その姿を見たら、すぐには離れる気にはなれません。市役所に行かなければならないギリギリの時間まで遠くから観察を続け、気になったことをメモ帳に記録しました。

この日、私は市役所での会議が終わってから再びこの場所を訪れました。正午近くだったと思います。インターネットや本で名前を調べた私は、この小鳥がチドリの間であることを知り、再度、観察するなかで、コチドリであることを確信を持ちました。もちろん、Tさんにも伝えました。

二度目の観察は、インターネットで新たな知識を得た後でした。最初に見たとき、コチドリが翼を広げたのはなんだったのか気になりました。というのも、コチドリは「自分が傷ついてもがき苦しんでいる様子を演じ、敵の注意を自分に引きつけさせて、卵や雛と反対の方向へ敵を導こうとする」ことがわかったからです。これを「擬傷（ぎしょう）」—というのだそうです。この日は確認できませんでしたが、小鳥が演技をするとは思いませんでした。

コチドリの抱卵期間は三週間余り。そして、その後、巣立ちまでどれくらいかかるのでしょうか。これからは梅雨時期で雨も風も吹きます。暑い日もあるでしょう。それにへびに襲われる可能性もあります。無事に巣立つてほしいですね。

の競技を繰り広げました。この日は異常に寒かったですが、団員はきびきびと動いていました。

写真は大島方面隊大島第一分団の小型ポンプ操法競技です。



直江津歴史講座に参加

18日午前、直江津のライオン像のある建物で直江津歴史講座がありました。このほど新潟県無形民俗文化財となった「直江津・高田祇園祭の御旅所行事と屋台巡行」について学びました。講師は佐藤和夫さん。

消防団の市長点検実施

18日の午後からは上越市消防団の市長点検でした。会場となった春日野駐車場には市内各方面隊から1000人を超える団員が集まり、小型ポンプ操法など



大島生涯学習センターで17日、行われた「音楽ライブinほたるの里」に参加してきました。今回はコーラル大島、上越教育大学吹奏楽団、大島小学校児童がコーラス、演奏、踊りを披露してくれました。最後の、ほたるのこどり/和踊りは全員参加です。太っている私は汗びっしょりになりました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月14日(水)	6月21日(水)
上越南消防署	0.040	0.043
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.050	0.053
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.050	0.057